

ガジュマルの木陰のような新しい市庁舎

- THE NEW NAHA CITY HALL -

沖縄の特性と新庁舎のあるべき姿

一亜熱帯の離れた島々からなる沖縄の可能性一

日本の南西端の島嶼地域に位置する沖縄は、日本の他地域と比べて特異な気候風土・歴史・文化をもつ。しかし、復帰後の経済発展の中で本土化が進み「沖縄らしさ」と「沖縄の誇り」が失われ、さまざまな環境・都市問題が起きている。この新庁舎建設は、「那覇市新庁舎基本構想・基本計画」に示された与条件の他、次の基本的な考え方を包含することが大切だと考える。

- 1 新しい沖縄の「**建築文化**」を示す庁舎
- 2 市民参加による「**自治**」の拠点としての庁舎
- 3 沖縄を再生する「**共生**」の拠点としての庁舎
- 4 沖縄を「**発信**」する拠点としての庁舎

那覇市の特性と新庁舎のあるべき姿

一島の人々を連結する庁舎が未来をつくる一

那覇は東南アジア・中国などと多様な交流があった琉球王国時代から政治経済の中心であった。今も、海路・空路の玄関であり、沖縄の離島や本土そして海外からの来訪者や観光客も多く、さまざまな出会いの場であり、交流の場である。那覇市は旧那覇・真和志・首里・小祿の4つのエリアからなり、35小学校区、154自治体から成る面積が約39.2km²の小さい街だ。しかし、人口は約31万人で、人口密度は8000人/km²と高密だ。特に現庁舎周辺は人々が集まる商業・業務中心地区であると同時に多くの那覇市民が暮らすエリアであるが、沖縄らしい魅力あるオープンスペースや施設は少なく、どこにでもある殺風景な都会の風景である。つまり、新庁舎は市民参加のもとで地域の気候風土・文化・歴史に基づく持続可能な街づくり、建築づくりの指針を示す**沖縄の都市再生の拠点**と位置づける必要がある。

庁舎建築モデルの原則

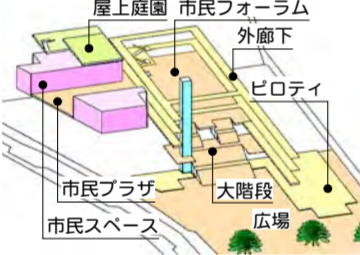
一沖縄の気候風土を生かした市民参加の新庁舎一

新庁舎は行政サービスのための「CityOffice」だけでなく、市民や来訪者が気軽に立ち寄り憩える公園のようなオープンスペースと施設を持ち、市民活動の拠点としての市民に親しまれる「CityHall」であるべきだ。

- 1 現庁舎の大きなガジュマルのある広場面積を全面確保する。
- 2 新庁舎は行政と議会の独立性を保ち、機能・効率的な市民サービスができること。
- 3 市民に開かれ自由に使える広場やスペースなどを設け、市民活動の拠点とする。つまり、庁舎前広場と連続する「ピロティ」と「大階段」、上階の「市民フォーラム・プラザ」、「屋上庭園」など、市民が終日活用できるスペースを新庁舎の中に確保する。
- 4 大階段や市民フォーラムの上部には大屋根を架け、強い直射日光や雨を遮り、木陰のような心地よい半戶外スペースを最大限に生かした沖縄型建築の庁舎をめざす。

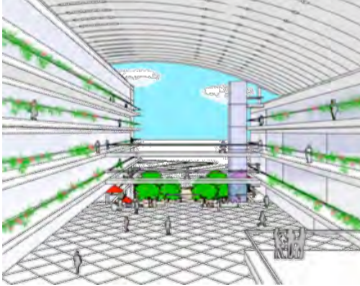
1 公園のような開かれた庁舎

市民は市民のものであり、敷地や建物の一部や屋上などは市民に開放する。庁舎前広場とピロティ・大階段・市民フォーラム・プラザ・スペース・外廊下・屋上庭園などは夜間休日など終日市民に開放される。



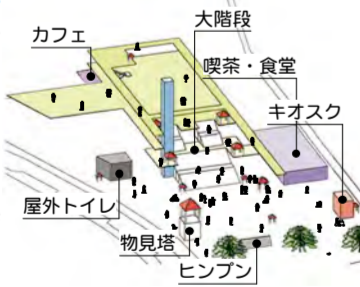
2 心地よい半戶外空間を持つ庁舎

年中温暖で直射日光が強く、雨が多い沖縄では、半戶外空間は心地よい風が通り抜け、室内的利用が可能である。広場と連続するピロティや大屋根のかかった大階段、市民フォーラムと市民プラザなどは公園であり市民活動の拠点となる。




3 多様な使用形態を誘起させる庁舎

市民のスペースとともに、喫茶・食堂やキオスク、トイレや東屋や物見塔、オブジェやベンチや照明などを設ける。これらのスペースは祭りや朝市や集会などさまざまな催しの場となる。大階段などは大きな観覧席として利用できる。



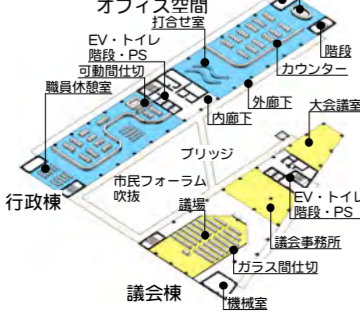
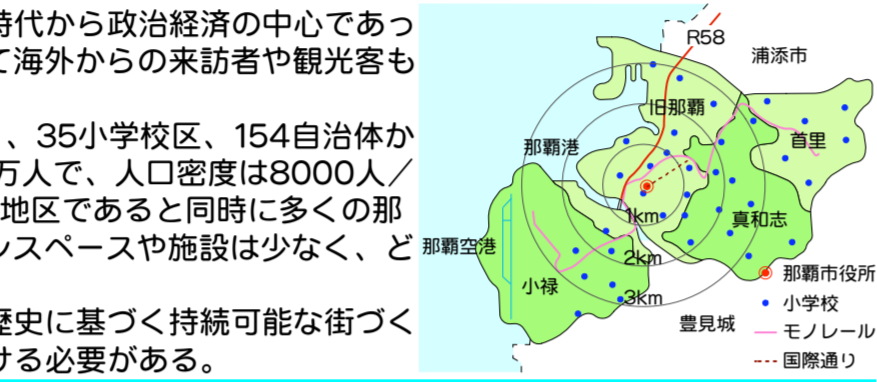
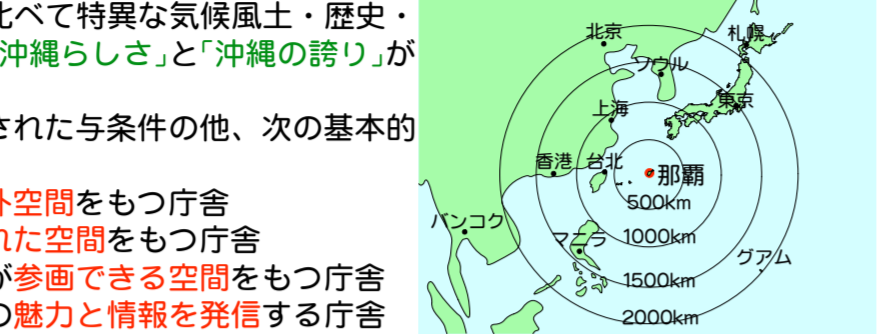
4 全体が見渡せるわかりやすい庁舎

広場・市民フォーラム・市民プラザなどすべての空間は連続しており平面的にも立体的にも見渡せる。そして行政棟も議会棟も全面ガラス張り、市民の目ごとく「ガラス張りの市庁舎」とする。また、4Fの警備室からは庁舎の全体が見える。



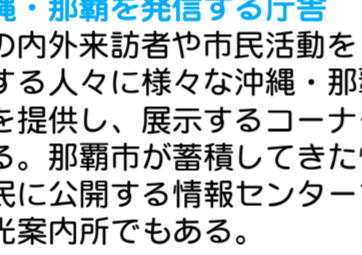
5 明快なゾーニングとフレキシブルなプランをもつ庁舎

地下駐車場、行政、議会など明快なゾーニングとし上階とも間仕切壁がない。市民の利用が多い部署は低層階に配置し、平面移動で用が足りる。行政棟と議会棟は別棟とし独立性をもたせながらブリッジによってつながっている。

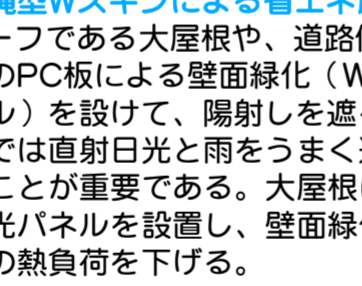
6 沖縄・那覇を発信する庁舎

多くの内外来訪者や市民活動をしよとする人々に様々な沖縄・那覇の情報を提供し、展示するコーナーをつくる。那覇市が蓄積してきた情報を市民に公開する情報センターであり観光案内所でもある。



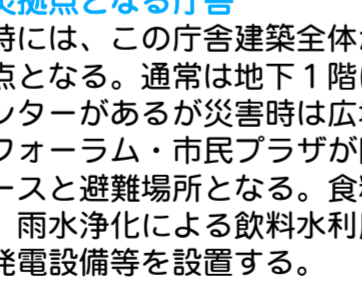
7 沖縄型Wスキンによる省エネ庁舎

Wルーフである大屋根や、道路側外廊下のPC板による壁面緑化（Wウォール）を設けて、直射日光と雨をうまく遮えざることが重要である。大屋根には太陽光パネルを設置し、壁面緑化は室内の熱負荷を下げる。



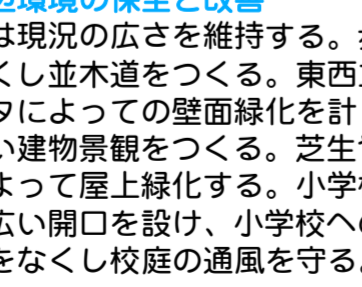
8 防災拠点となる庁舎

災害時には、この庁舎建築全体が防災拠点となる。通常は地下1階に防災センターがあるが災害時は広場・市民フォーラム・市民プラザが防災スペースと避難場所となる。食料の備蓄、雨水浄化による飲料水利用、非常発電設備などを設置する。



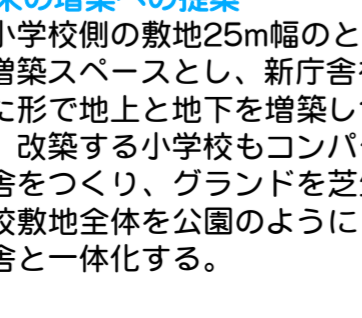
9 周辺環境の保全と改善

広場は現況の広さを維持する。歩道も広くし並木道をつくる。東西立面はツタよっての壁面緑化を計り、美しい建物景観をつくる。芝生や低木によって屋上緑化する。小学校側には広い開口を設け、小学校への圧迫感をなくし校庭の通風を守る。

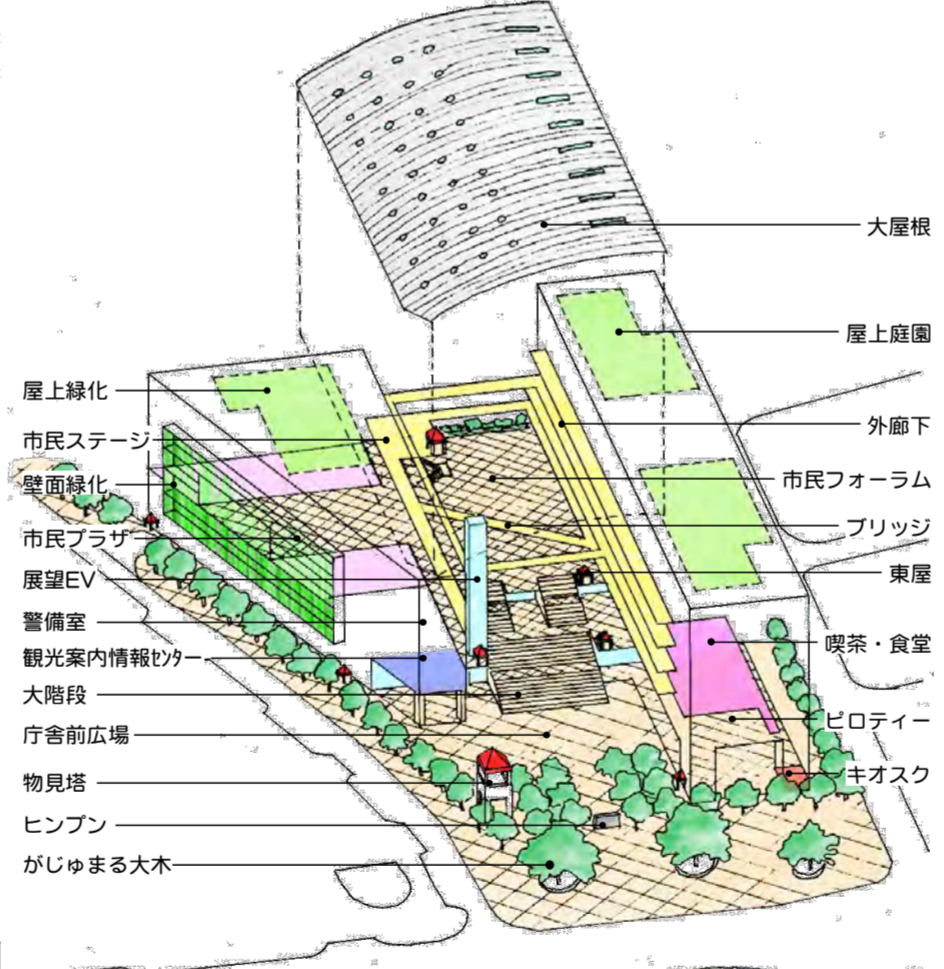
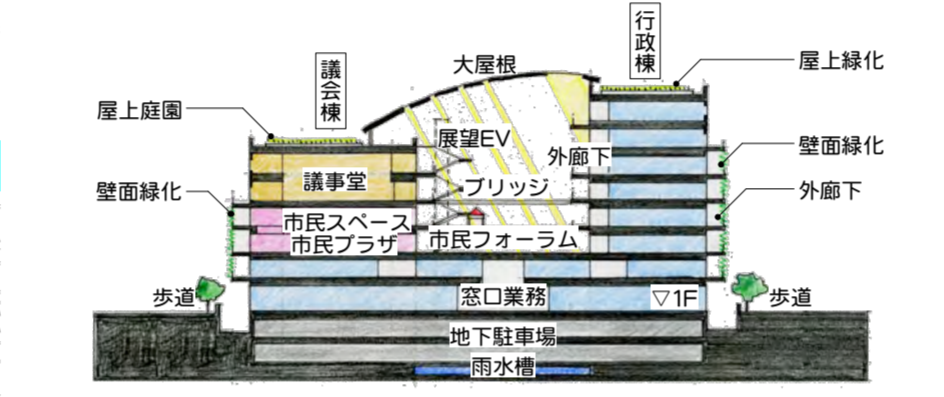


10 将来の増築への提案

開南小学校側の敷地25m幅のところを増築スペースとし、新庁舎を延長した形で地上と地下を増築しつなげる。改築する小学校もコンパクトに校舎をつくり、グラウンドを芝生化し学校敷地全体を公園のようにし、市庁舎と一体化する。




新庁舎の建築空間とは、大きな「**がじゅまるの木**」のような建物だと考える。しっかりと地域に根をおろし、台風にも耐え、広い枝とたくさんの緑の葉で強い直射日光を遮えざり、風が通り抜け、木陰のある心地よい空間環境をもつ。そして、いつもそこには多くの人々が安心安全と未来を求めて集う。そこは従来の建築にない多様性と可変性があり、成長する空間でもある。



庁舎建築モデルの手法

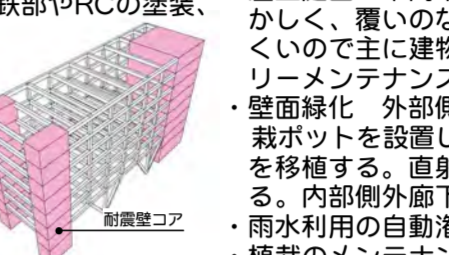
一機能的・合理的で人にやさしい庁舎一

構造計画

一サスティナブルで合理的な構造をもつ庁舎

新庁舎は強固で長寿命。しかも単純明快な架構システムでPc等の効率的工法を前提とした建築構造1類とする。端部と中央コアに耐震壁をつくり、大空間を確保し将来の変容や拡張に対応できるものとする。

- ・耐塩害の建物をめざし、外壁タイルの採用、低スランプコンクリートの採用、外部鉄部の亜鉛溶融メッキ量の増量、内部鉄部やRCの塗装、ガラスの多用など躯体部の劣化対策を施す。
- ・地下2階のこの建物は、地下6~8mに泥岩の支持層があるので直接基礎とする。
- ・大屋根屋根材は、安価でしかも耐久性のある極厚目付高耐候性溶融メッキ鋼板を使用する。
- ・メンテナンスのしやすい設計とし、メンテナンスマニュアルをつくり徹底する。

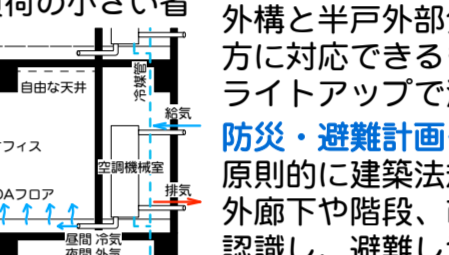


設備計画

一沖縄型グリーン庁舎

亜熱帯海洋性気候の沖縄では、機械や設備に過度に依存せず、自然の光・気温・風・雨を生かした環境負荷の小さい省エネの庁舎をめざす。

- ・室内の床吹出し空調採用とナイトバージ機能による外気冷却
- ・大屋根・屋上緑化・壁面緑化による環境負荷軽減
- ・大屋根の太陽光発電、雨水の中水利用、夜間電力利用の水蓄熱利用
- ・外廊下を通しての自然光利用と高出力照明の採用
- ・長寿命化機器の採用、エコマテリアルの使用など



バリアフリー計画

一ユニバーサルデザインの庁舎

老若男女・外国人・身障者の方などさまざまな人々がこの開かれた庁舎を訪れる。段差のないこと、身障者EV・トイレ、点字ブロックなど物理的な処方は市や県の「福祉のまちづくり条例」に準ずるとともに、設計・施工時の市民参加の際にさまざまな意見を聞く。そして福祉機器の設置だけでなく運営上の心のかよった**沖縄型バリアフリー**を心がける。

新庁舎への市民参加

一市民参加にむけて建築に何が可能か？一

私たちは設計時の市民参加を起点とし、建設中、竣工時そして、完成後の「市政や街づくりへの市民参加」が持続できる空間をもつ庁舎を求めて、「**市民参加**」を考える。沖縄にはかつて、「シマ」と呼ばれたコミュニティの基本単位の中にあつて、「**ユイマール**」という相互扶助・共同参画の住民参加のシステムがあつた。これを参考にし、沖縄型市民参加の新しいシステムをこの新庁舎建設の中で再構築する。

設計時の市民参加

新庁舎は「CityOffice」だけでなく「CityHall」であるべきで、行政サイドだけでなく利用者（市民）サイドから新庁舎ビジョンを求めワークショップを開く。その際次の事が大切である。

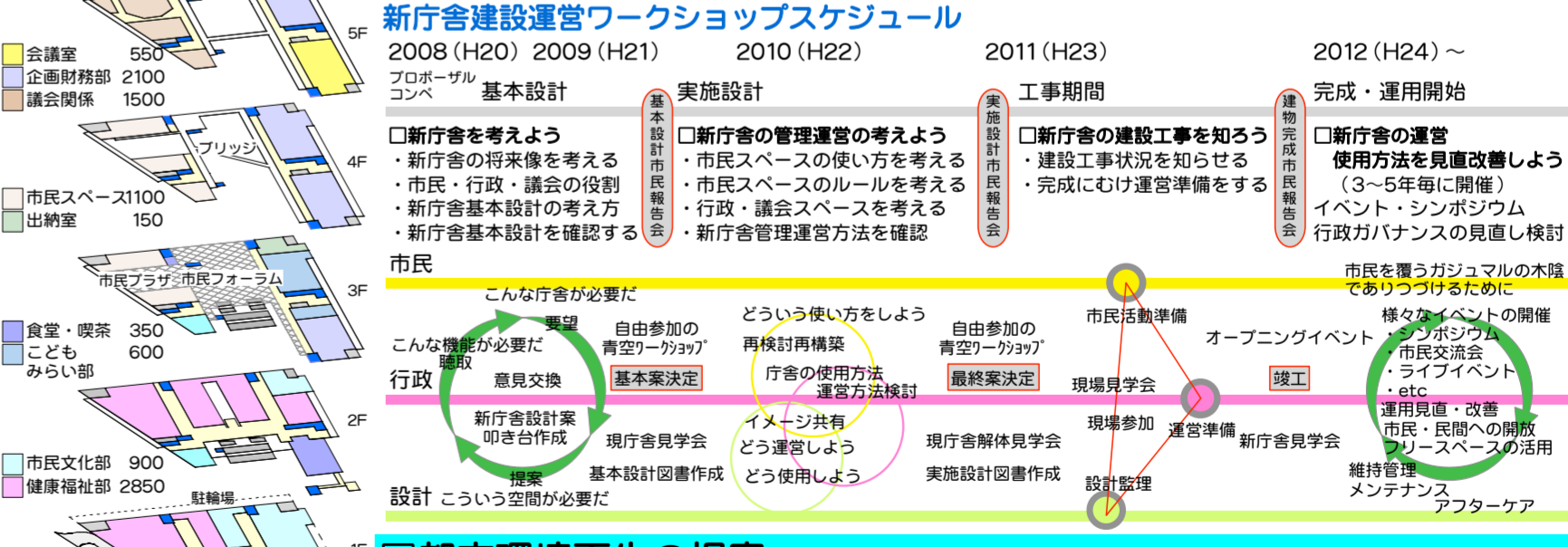
- 1) 設計初期に新庁舎の将来像のイメージを市民と共有すること
- 2) やさしい言葉と道具を用いたワークショップを開くこと
- 3) コンペ案をゼロから検討し、柔軟に改善する設計側の態度

建設時の市民参加

市民の意見を盛込んで作った新庁舎将来像を建設・運営・管理の面から再度市民と考える。そして現場で市民スペースの空間規模や広さを確認する。

竣工後の市民参加

完成した新庁舎の運営・利用・管理を市民とともに見直す。そして、市政や街づくりに市民が参加しやすく、より活発化するように庁舎建築の中での市民スペースのあり方を定期的に話し合いをし、将来的にわたって改善し続ける。



都市環境再生の提案

一セントラルパークによる那覇都心再生計画一

一人当たりの公園面積が4.9m²しかない那覇市の中で、特に少ない庁舎周辺だが、新庁舎・県庁・開南小学校・パレットくもじの帯には利用されていないオープンスペースが意外と多い。都市再生の試みとしてこの一帯を市民に開かれた「**セントラルパーク都心再生計画**」を提案検討する。県庁の建物間空地の利用、地上駐車場の地下化、開南小グラウンドの芝生化と校庭の開放、パレットくもじ周辺の緑化、国際通りの並木によるモール化し、大綱引きやエイサー大会などさまざまな祭りや催し物のできる場とする。日常的には木陰下のカフェなど、市民や来訪者が集う沖縄の名所とする。

